

☆公害による健康被害を許すな!
☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



カワセミ
画・橋本正弘

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会

大阪市此花区西九条1丁目4-9
高田ビル 〒554-0012

TEL 06-6463-8003

FAX 06-6463-8202

oskougai@coast.ocn.ne.jp

発行責任者 芹沢 芳郎

年間購読料一部2,000円(送料共)

郵便振替 00910-7-300387

農家はなぜ農薬をつかうのか?

日上 猛之祐さんに聞く

「中国産ぎょうざ」中毒事件でスポットを浴びた「メタミドホス」、日本では使用されていない「殺虫」目的の農薬で、混入経路はまだまだ定かにされていませんが、効力と毒の両刃の刃である農薬を農家はなぜ使うのか?と素朴に思います。農業・農薬研究歴30数年の日上猛之祐さんに聞きました。

「稲や麦などの穀物、いろいろな野菜、果物など農作物を栽培するために、農民には昔から様々な苦労と努力が必要でした。ほとんどの作物は生育の途中で病気が出たり害虫に襲われます。病気や害虫は作物ごとに何種類

もあり、被害を受ける部分も葉っぱや幹や根や果実などいろいろです。中にはウイルスのように全身が侵されることもあります。

近世以前の農業では的確な防除方法もなく、農民は自然災害としてあきらめるだけでした。科学的な試験研究がすすむにつれ、病気や害虫に強い品種の育成や輪作など栽培管理をすることで被害を軽くするようにしてきました。戦後になってアメリカから持ち込まれたDDTやBHCが脚光を浴びました。はじめはノミやシラミの駆除目的に人間にも

直接ふりかけました。今から考えると恐ろしいことをしたものです。これらをきっかけに化学合成農薬の開発がすすみ、BHCやセレスン石灰という名の有機水銀剤、稲の大敵二化メイ虫を殺すパラチオンなどが普及し効果を発揮しました。戦後の食糧増産という至上命題に化学合成農薬は大きく寄与しました。

化学合成農薬の普及は、農民にとって作物の安定収穫という意味で効果がありました。それを加速したのが1961年に公布された「農業基本法」です。一口で言うところ「儲かる品目に切りかえ規模を大きくする」道筋です。「前進栽培」などといい旬よりハシリ、露地栽培からハウス栽培、例えば、トマトばかりに集中する栽培、水田をつぶした転作ミカンなども近代化路線の一環

をひた走ったのです。農業現場では「農民にとっては一作一作が貴重な収入源で失敗はできない」といい、公的研究機関からは「予防散布」が指導されました。これも、病気の種類がまちまちで、ある病気の常習発生地なら効果があるでしょうが、あまり発生しないところでは無駄な投与で浪費と徒労と環境汚染をすすめるだけです。加えて、高級志向の中で、「ますますなキュウリ」「虫のついていない野菜」「粒の揃ったトマト」などが主に流通事業が「消費者のニーズ」だといって要求してきました。実際に、不揃いな品物やキズものは二束三文でしか売れなくなり、農民は収入を維持するために、曲ったキュウリは竹にはさんで重石をつけて真っ直ぐに矯正したり、選別や包装に手間をかけるなど、見

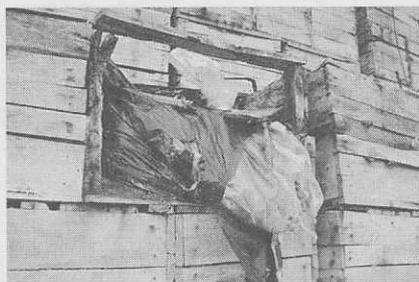
た目優先の戦略に組み込まれていきました。中国でも日本向け農産物にはこんな基準が強要されているのかも知れません。私は、中国の農薬汚染ニュースを聞くたびに、あの当時の日本の状況が重なってきます。「ぎょうざ汚染」の背景に、こういう構造的な問題の潜んでいることをぜひ皆さんにわかってほしいと思います。(文責 藤永)



中国にんじん (2006年5月神戸港)



中国かぼちゃ (2006年5月神戸港)



腐敗・変色した輸入しょうが

です。こういう「小品目多量生産」が害虫や病原菌を増やし、化学合成農薬の使用を前提にする経営拡大、農薬万能時代

をひた走ったのです。農業現場では「農民にとっては一作一作が貴重な収入源で失敗はできない」といい、公的研究機関からは「予防散布」が指導されました。これも、病気の種類がまちまちで、ある病気の常習発生地なら効果があるでしょうが、あまり発生しないところでは無駄な投与で浪費と徒労と環境汚染をすすめるだけです。加えて、高級志向の中で、「ますますなキュウリ」「虫のついていない野菜」「粒の揃ったトマト」などが主に流通事業が「消費者のニーズ」だといって要求してきました。実際に、不揃いな品物やキズものは二束三文でしか売れなくなり、農民は収入を維持するために、曲ったキュウリは竹にはさんで重石をつけて真っ直ぐに矯正したり、選別や包装に手間をかけるなど、見